

2018年9月6日

各位

株式会社バイテックホールディングス
バイテックグローバルエレクトロニクス株式会社

バイテックグループが医療機器市場への新規参入
大阪大学大学院医学系研究科『認知症プレシジョン医療開発学寄附講座』
開設に向けた寄附の実施

株式会社バイテックホールディングス（本社：東京都品川区、代表取締役会長兼社長：今野 邦廣、以下「当社」）の子会社であるバイテックグローバルエレクトロニクス株式会社（本社：東京都品川区、以下「VGEL」）は、医療機器分野への新規参入のため、国立大学法人大阪大学大学院医学系研究科『認知症プレシジョン医療開発学寄附講座』開設の寄附を実施しましたので、お知らせいたします。

1. 本寄附に至る理由

当社は、「世界」「社会貢献」「共創」というキーワードのもと、新たなステージに向けた取り組みを進めております。創業よりエレクトロニクス分野において半導体及び電子部品等の販売事業に取り組み、資本業務提携等により、商材の拡充、業容ならびに顧客の拡大に努めるとともに、ソリューション提案、技術開発サポート等で顧客の様々な要望に応えられるように、ビジネスコーディネーターとして付加価値の高いビジネスの創出に取り組んでおります。2010年からは、新たな事業の柱として環境エネルギー事業に進出し、メガソーラーによる発電、新電力会社による売電、植物工場による野菜の生産・販売を進めております。

当社グループの電子機器事業では、特殊な測定機器・検査装置を取扱い、研究施設・政府/公共機関へ販売・校正・保守を行っております。製品の中には、台湾 MagQu 社の Immune Magnetic Reduction 分析器のような、理化学機器でありながら海外では既に医療機器認定を取得しているものもあります。電子機器事業は、中期戦略として「医療機器市場」への新規参入を推進しており、この度、国立大学法人大阪大学に『認知症プレシジョン医療開発学寄附講座』を開設することにより、医療機器機関での評価/検討を進め、機器の導入と測定サービスの確立を目指します。

2. 『認知症プレジジョン医療開発学寄附講座』の設置目的

認知症の患者数は462万人（65歳以上の約7人に1人、2017年版内閣府高齢社会白書）と激増しており、人口の高齢化とともに今後さらに増加することが見込まれますが、認知症の診断治療法の有効性は極めて限定的です。ヒューマンサイエンス振興財団のアンメット・メディカル・ニーズ（未だ満たされぬ医療ニーズ）の調査によると、アルツハイマー病治療薬の満足度は主要60疾患の中で最下位となっております。効果的な認知症治療法の開発が難航している大きな理由として、「疾患が複雑」「疾患が不均一」、そして「使いやすいバイオマーカーがない」ことが挙げられます。発症の原因や脳の状態に多様性があると考えられている認知症に対し、医師の診断をより正確にし、患者個人レベルでの最適な治療方法を分析・選択、それを施す「プレジジョン医療」の実現のためにも、安価で使いやすいバイオマーカー開発が求められております。

本寄附講座では認知症の基礎研究から血液バイオマーカーやプレジジョン医療の研究・実現を目的としております。

3. 『認知症プレジジョン医療開発学寄附講座』の概要

(1) 寄附者の概要

社 名：バイテックグローバルエレクトロニクス株式会社
代 表 者：代表取締役社長 今野 邦廣
住 所：東京都品川区北品川2丁目32番3号
資 本 金：310百万円（2018年3月現在）
売 上 高：86,929百万円（2018年3月末現在）
事 業 の 内 容：デバイス事業および電子機器事業

(2) 寄附講座の概要

講 座 名：認知症プレジジョン医療開発学寄附講座
設 置 期 間：2018年7月1日～2021年6月30日
教 授 相 当 者：森原 剛史（寄附講座教授）
講 師 相 当 者：永田 健一（寄附講座講師）
寄 附 総 額：105百万円

4. 本件お問合せ先

バイテックグローバルエレクトロニクス株式会社 電子機器本部
窓 口：戸毛 栄治 電 話 番 号：03-5781-5130

参考：大阪大学大学院医学系研究科プレスリリース

<http://www.med.osaka-u.ac.jp/archives/13611>

以上